

明和ハンドローラ

MR-25H

取扱説明書

エンジンは別冊

注意

本取扱説明書を読み、内容を理解してから
当製品を運転・点検・整備してください。



株 式 会 社 明 和 製 作 所

目 次

はじめに、機械の御使用にあたって-----	1
振動ローラの特定制自主検査および特別教育について-----	1
安全表示ラベル（「危険」「警告」「注意」）について-----	2
安全に作業をするために -----	3
安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。	
安全表示ラベルの種類と貼付け位置	
仕様（本機、エンジン） -----	7
各装置の名称、位置 -----	8
運転を始める前に -----	9
作業前の各部の点検	エアクリーナの点検
エンジンオイルの点検	作動油量の点検
燃料の補給	
エンジンの始動及び本機の運転 -----	11
エンジンを始動する前に	
エンジンの始動・停止	
本機の運転・停止	
作業（付属）装置-----	14
散水装置	
吊り金具	
積込み・積みおろしの注意	
輸送時の注意	
操作ハンドルの格納	
サブロール・サポート	
本機 及び エンジンの保守、点検 -----	16
作業前の点検	
定期点検	
ボルト、ナット、各部品の点検	
本機洗浄時の注意	
長期保管時の注意	
メンテナンス資料-----	18
こんな時は（トラブルシューティング） -----	19
エンジンの始動不良	
エンジンの運転不調	
本機の不調	

は じ め に

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、ハンドローラを対象に作成したものです。

この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。

ご使用になる前に必ず本書をお読みになり使用方法を理解してください。

(誤った使用方法是、事故・けがの原因となります)

エンジンの取扱説明書も必ず読んで理解の上使用してください。また、お読みになった後、必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

機械の御使用にあたって

- ・ コンクリートや既設アスファルトのような硬い路面では振動させないでください。機械の故障の原因となります。
- ・ 急な傾斜地での使用はしないでください。機械が不安定になり、事故の原因や本機、エンジンの故障の原因となります。
- ・ 機械に純正部品以外の部品を取り付けた場合や、改造した事で発生した事故には当社は一切の責任を負いません。また、機械の保証期間内であっても保障の対象とはなりません。
- ・ 明和ハンドローラの運転に当たっては、特別教育を終了したもので、事業者から指名された人が、運転を行わなければなりません。
- ・ 満18才未満の人は、ローラの運転を行うことは出来ません。

振動ローラの特定制自主検査（法定年次検査）および特別教育について

1. 特定制自主検査について

振動ローラは、労働安全衛生法により次のとおり義務付けられています。

- (1) 一年を越えない期間ごとに一回、定期に特定制自主検査（年次検査）を行うこと。
 - (2) 上記の法定年次検査は、機械を使用する事業所に所属する者で一定の資格のある者か、又は登録を受けた検査業者に行わせること。
 - (3) 上記の法定年次検査を完了した機械には検査済の標章を貼付すること。
- (注) この度、お買い上げいただきました明和ハンドローラには、上記法令に基づいて出荷標章が貼付されており、この出荷標章に第一回目の法定年次検査を受けるべき「年・月」記載されていますので、この期日までには必ず上記の法定年次検査を受けてください。

2. 特別教育について

- (1) 明和ハンドローラの運転に当たっては、特別教育を終了したもので、事業者から指名された人が、運転を行わなければなりません。
- (2) 満18才未満の人は、ローラの運転を行うことは出来ません。

特定自主検査の参考資料はメンテナンス資料（巻末）に載せてあります。

安全表示ラベル （「危険」「警告」「注意」）について

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

 **危険** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** : 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示します。

この取扱説明書に書かれている安全に関する注意事項は、あらゆる環境下における運転・点検・整備作業のすべての危険を予知することはできません。

そのため、取扱説明書や機械に貼ってある注意ラベルの警告は、安全のすべてを書いたものではありません。

もし、本書に書かれていない運転・点検・整備作業をする場合の安全に対する必要な配慮は、すべて自分の責任でお考えください。

安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全注意シンボル

このシンボルは「安全注意」を示します。
機械の注意銘板あるいはこの取扱説明書で、このシンボルを見た場合、安全に注意してください。
そして、記載内容に沿って予防処置を講じ、「安全運転・正しい管理」を行ってください。



安全指示順守

- この「取扱説明書」をよく読み、理解してください。
 - ・ 安全注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
 - ・ 破損または紛失した場合、直ちに発注のうえ再度貼付けてください。
 - ・ 正しい運転、作業方法をよく覚えてください。
 - ・ 機械は常に正常な状態に管理してください。
 - ・ 機械を勝手に改造しないでください。安全性を損なったり、機能や寿命低下の原因となります。
 - ・ 「安全に作業するために」の章は基本的な安全順守事項を示したものです。
 - ・ 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- 機械を他人に貸したり、使わせる場合は、取扱い方法をよく説明し、また、あらかじめこの「取扱説明書」を読むように指導してください。



安全な服装・運転の心得

- 作業をする際は、作業に合った服を着用のうえ、作業に適した安全防護具を用いてください。
- 操作レバーや他の突起物に誤ってひっかかるおそれがあるものは、着用しないでください。
- 過労や睡眠不足などで体調が悪いときや、飲酒時、薬物服用時の運転はしないでください。
- 運転中は安全を維持するために、ラジオあるいはミュージックヘッドホーンを使用しないでください。



火災の防止

- 燃料、潤滑油のもれは、火災を起こすおそれがあります。
不具合があれば修理の上、油よごれを拭取ってください。
- エンジンのまわりに木片、枯れ葉、紙くずなどの可燃物が蓄積していると火災の原因となりますので常に除去してください。



排気ガスに注意

■ エンジンの排気ガスは、人体に有害な一酸化炭素などの成分を含んでいます。

- ・ 換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。
- ・ 運転中は運転者はもちろん、まわりの人も排気ガスに十分注意してください。



燃料、潤滑油の取扱いを安全に —火気厳禁—

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。
取扱いには注意してください。
- 燃料や潤滑油の補給はエンジンを停止してから行ってください。
- 喫煙しながら、あるいは、火気や火花の近くでの 給油作業は絶対にしないでください。
- 燃料補給は風通しのよい屋外で行ってください。
- こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性があるの
で、エンジンが冷えてから補給してください。
- こぼれた燃料や潤滑油はいつもきれいに清掃してくださ
い。
- 火災を起こさないために、エンジンに堆積した汚れや、油
性物、ゴミをいつもきれいに拭取っておいてください。
- 燃料など燃えやすい油脂類は、火気から離して貯蔵 してく
ださい。



やけどの防止

- エンジン運転中および停止直後はマフラやマフラカバー、
エンジン本体およびエンジンオイルが熱くなっています。
手や肌が触れるとやけどの危険があります。
- 運転後はエンジンが十分に冷えてから（停止後30分以上）
補給、点検、整備等の作業をしてください。



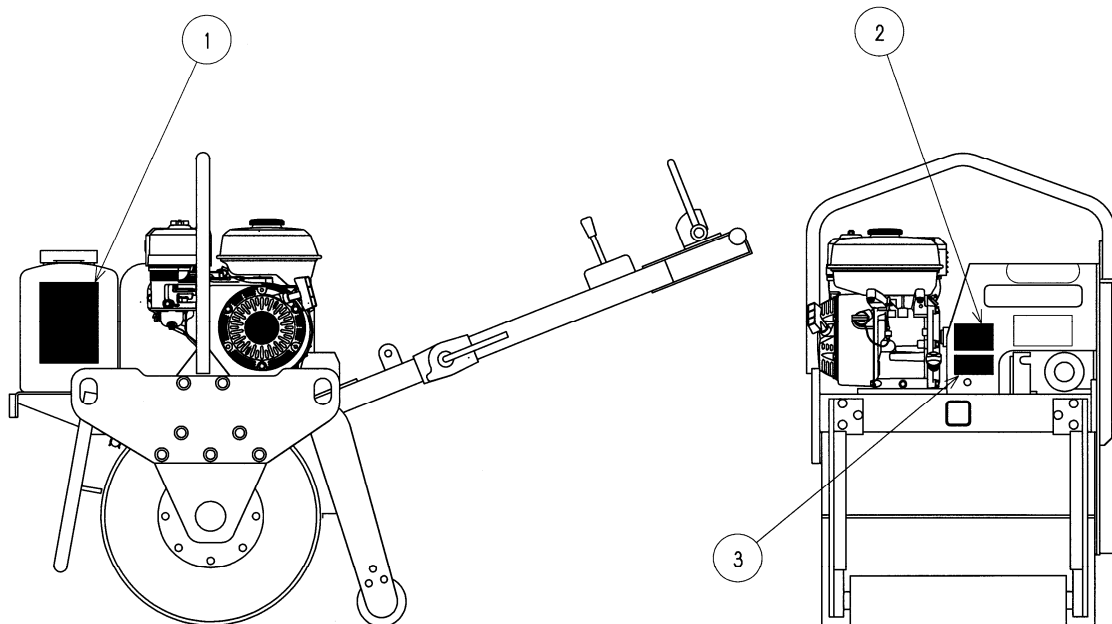
作業中の注意

- 機械を始動するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- エンジン始動時は、急に走行したり、振動する事がありますので、走行レバーは「中立」振動レバーは「断」の位置を確認してから、エンジンを始動してください。
- コンクリートのような固い路面では、振動させないでください。
常に足場に注意してローラの運転が無理の無い姿勢で作業してください。
- 転圧材料によっては、周囲に材料が飛び散ることがあります。運転には十分周囲の安全に気を付けてください。
- 運転中はローラ本体の上や操作ハンドルに乗らないでください。
- 機械から離れる場合は、平らで安定した地面でエンジンを停止してください。
- 傾斜地には駐車しないでください。やむをえず駐車する場合は、走行レバーを「中立」にし、車輪に車止めをしてください。
- 転圧材料によっては、周囲に材料が飛び散ることがあります。運転中には十分周囲の安全に気を付けてください。
- 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた時は直ちに作業を中止してください。
- 機械から離れる場合は、平らで安定した地面でエンジンを停止してください。
機械を移動するときもエンジンを停止してください。

運搬、保管の注意

- クレーンによる積込み、積みおろしの場合は、クレーンの運転資格と玉掛け技能資格の両資格が必要です。
- 吊り上げ、運搬時はエンジンを停止してください。
- 本機を吊り上げる際は、吊金具、防振ゴム等の損傷が無いか、取付ねじの緩み、脱落が無いかを必ず確認してください。
- ワイヤロープ等は十分強度のあるものを使用し、使用前に安全を確認してから行ってください。
- クレーンで積込み、積みおろしの場合はまっすぐに衝撃をかけないように上げ下げして機械のバランスを確認しながらゆっくり積込み、積みおろし作業を行ってください。
- クレーンで吊上げた状態で機械を揺らすようなことは絶対にしないでください。
- 吊り上げた機械の下に絶対に人や動物等を入れないでください。
- 移動式クレーン、フォークリフト等で機械を吊り上げたままでの移動は、危険なので絶対行わないでください。
- エンジンや機体が冷えてから運搬してください。
- 燃料タンクのキャップ、エンジンオイルの給油プラグが外れないようにしっかり締め、燃料コックを閉じ燃料がこぼれない用にしてください。
- 長距離、悪路の運搬時は燃料を抜いてください。
- 運搬時に機械が動いたり、倒れたりしないようにしっかり固定してください。
- 他の機械で無理な牽引をしないでください。（走行系統が故障する恐れがあります。）

安全表示ラベルの種類と貼付け位置



①1002294

⚠ 警 告
1. 使用上の注意 ●運転者は18歳以上でローラの特別教育を終了していなければなりません。 ●機械は常に清潔にしてください。操作ハンドル、レバーなどに油、泥、水などが付着していると滑り易くなるので、よく拭きとってください。 ●機械の改造はしないでください。改造に起因する事故や故障については責任を負いかねます。 ●作業前には、必ず作業前点検を行ってください。異常のある場合は機械を動かさないでください。 2. エンジン始動時の注意 ●エンジンを始動する前に操作レバー類が中立の位置にあるか確認してください。 ●エンジン始動後は暖気運転を十分行ってください。 3. 運転時の注意 ●機械を動かす前に合図をし周りの人に注意を促してください。 ●急速なレバー操作や乱暴な取扱いはいしないでください。 ●路肩に沿って走行すると転倒の恐れがあるので注意してください。 ●後進で作業するときには、後方に障害物などがないか十分確認してから行ってください。 4. 駐車時の注意 ●駐車するときは水平な場所に止め、パーキングブレーキを確実に作動させて車止めをして固定してください。 ●5分以上の冷氣運転後エンジンを停止してください。 ●機械から離れる時はキーを必ず持ち帰ってください。(セル始動の場合) 1002294

②1002275

⚠ 警 告
運転・点検整備を行う前に取扱説明書をよく読み十分理解してから行ってください。 間違った運転及び点検整備は重大なケガや死亡事故の原因となります。 1002275

③1002293

⚠ 警 告
騒音・振動に注意 長時間連続して作業すると、健康を損ねる恐れがありますので途中で休憩をとってください。 1002293

2. 安全表示ラベルの手入れ

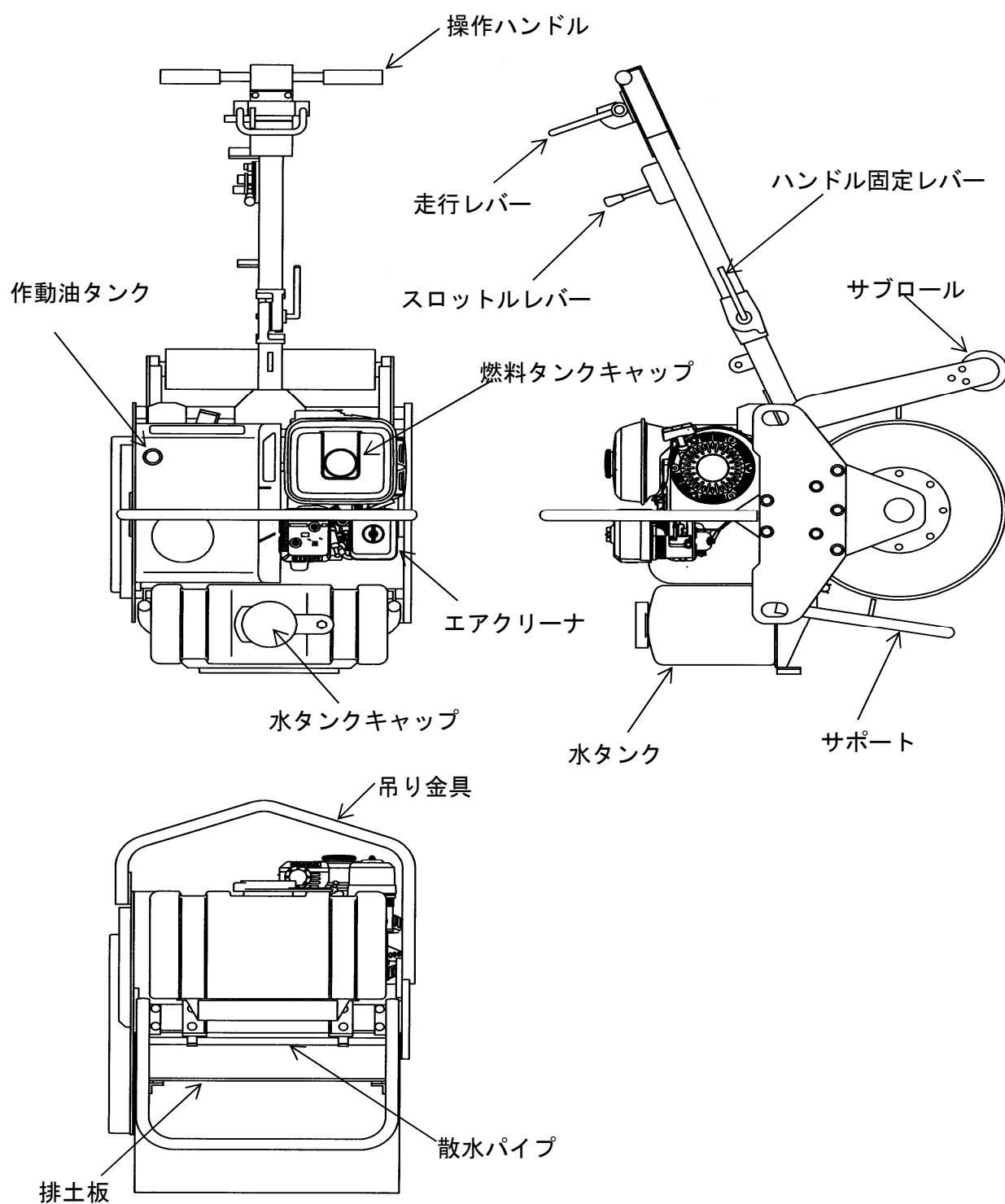
- ・ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- ・破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- ・ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

仕 様

型 式				MR－25H
質 量	機 械 質 量		kg	250
	運 転 質 量		kg	270
主 要 寸 法	全 長		mm	1535
	全 幅		mm	646
	全 高		mm	990
	軸 間 距 離		mm	—
	最 低 地 上 高		mm	90(サポート)
	ロールサイズ (径×幅)	前 輪	mm	φ457×560
		後 輪	mm	—
	カーブクリアランス		mm	340
	サイドオーバーハング		mm	31
性 能	走 行 速 度	前 進	km/h	0～2.4
		後 進	km/h	0～2.4
	登 坂 能 力		度	15
	締 固 め 幅		mm	560
	起 振 力		kN(kgf)	8.3(846)
	振 動 数		Hz(vpm)	74(4440)
線 圧	静 線 圧	N/cm(kgf/cm)	47.3(4.8)	
	動 線 圧	N/cm(kgf/cm)	196(20.0)	
エ ン ジ ン	名 称		—	ホンダGX160
	総 排 気 量		L	0.163
	最 大 出 力		kW(PS)/min ⁻¹	3.6(4.9)／3600
	最 大 ト ル ク		N・m(kgf・m)/min ⁻¹	10.3(1.1)／2500
	使 用 燃 料		—	ガソリン
	始 動 方 式		—	リコイルスタート
タンク容量	燃 料 タ ン ク		L	3.1
	作 動 油 タ ン ク		L	0.8
	散 水 タ ン ク		L	20

本仕様は、予告なく変更することがあります。
 機械質量は、燃料タンク容量の1/2の燃料を含んだ値です。
 線圧は運転質量で計算しています。
 エンジン出力はエンジンメーカーのカatalogによる最大出力です。

各装置の名称、位置



1. 運転を始める前に

1-1. 作業前の各部の点検



※ エンジン運転中に点検をしないでください。大変危険です。

点検は必ずエンジンを止めてから行ってください。

運転前には、必ず各部の点検を行ってください。

異常があった場合は部品交換、増し締め等の処置を実施してください。

点検項目は保守・点検のページの「作業前の点検」を参照して下さい。

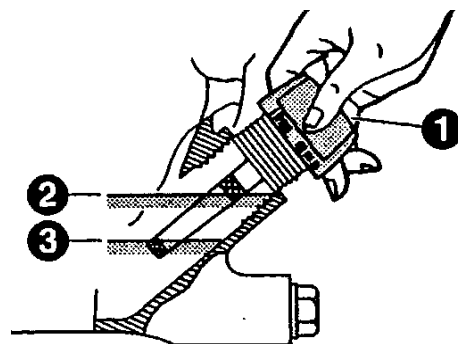
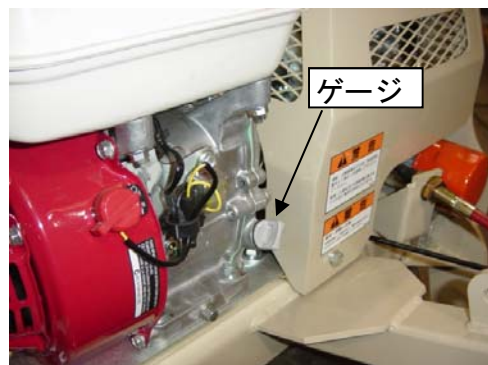
1-2. エンジンの点検

エンジンの詳細については別冊のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

エンジンオイルの点検

- ・ 機械を平らな地面に置き本機が水平の状態で行ってください。
- ・ オイルの点検は給油栓①をねじ込まないで行ってください。
- ・ 油面②と油面③の間が適正油面です。
- ・ 最低油面③以下の場合は、注油口からオイルゲージで最高油面②までオイルを入れてください。
- ・ オイルがこぼれたときはきれいに拭きとってください。
- ・ 点検後は給油栓①を確実に締付けてください。

※ エンジンオイルの種類と量はメンテナンス資料（巻末）参照。



1-3. 燃料の補給



※ 燃料補給時は火気厳禁

- ・ 燃料を補給するときは、必ずエンジンを止めて行ってください。
- ・ 燃料は自動車用普通ガソリンをお使いください。
- ・ 燃料注入時には、注入口に装着してある燃料コシ網で燃料をろ過しながら補給してください。
- ・ 燃料は口元一杯まで入れないでフィルタの底面までにしてください。
- ・ 燃料をこぼしたときは、きれいに拭き取ってください。

1-4. エアクリーナの点検

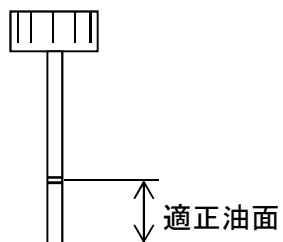
エアクリーナーのエレメントを点検し、汚れている時は清掃して下さい。



1-5. 作動油量の点検

点検は作動油が冷えている時に行ってください。

給油口のねじ込みキャップのゲージ棒の先端ときざみ線の間が適正油面です。
点検はキャップをねじ込まないで行ってください。



給油口
(ねじ込みキャップ)

不足している時は補給して下さい。油の種類はメンテナンス資料（巻末）を参照。

※ 油の量が著しく少ない時は油漏れの疑いがありますのでポンプ回りの油漏れの確認を行ってください。

2. エンジンの始動及び本機の運転

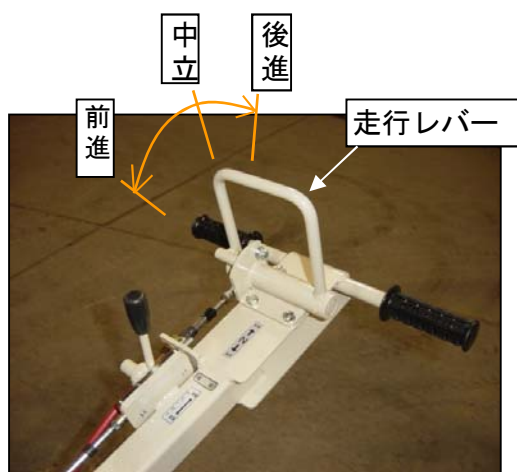


エンジンを始動する前に

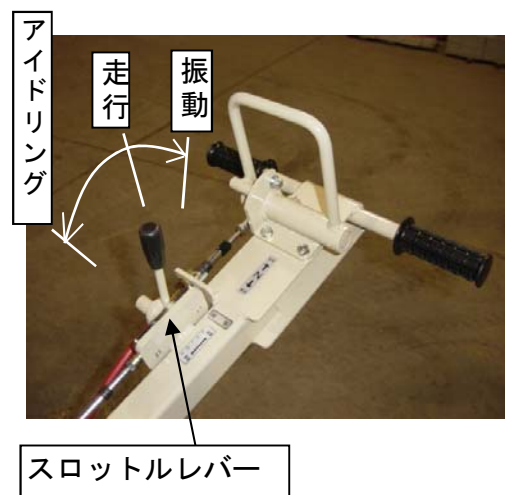
- ・ エンジン始動時は周囲の安全を確かめてから始動して下さい。
- ・ 閉め切った屋内ではエンジンの始動、運転をしないで下さい。排気ガスで空気が汚れ、ガス中毒を起こす危険があります。
- ・ エンジン運転中は幼児や家畜などを機械のそばに近づけないで下さい。
- ・ 酒気帯びでは運転しないで下さい。
- ・ 安全運転のため運転時は安全な服装を着用して下さい。
だぶついた上着やズボン、首や腰のタオル、前掛けなど回転部に引き込まれやすい服装は大変危険です。

2-1 エンジンの始動

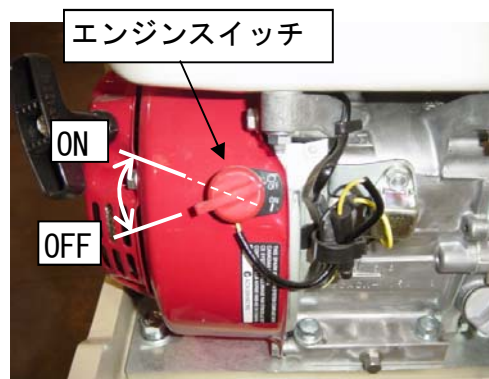
1. 走行レバーを中立にします。
2. 燃料コックレバーを「出」の位置に合せます。



3. 寒いときやエンジンがかかりにくい時はチョークレバーを「始動」の位置に合せます。
・ エンジンが暖まっているときは操作不要です。
4. スロットルレバーを走行の位置（ノッチが穴に入る所）にします。



5. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



6. 始動グリップを引き、重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

※ 取扱いのポイント

始動グリップを引いたまま手を放さないで下さい。始動装置や回りの部品を破損することがあります。

運転中は始動グリップを引かないで下さい。エンジンに悪影響を与えます。



7. 始動した後、チョークレバーを「始動」にしたときはエンジン回転が安定することを確認しながら徐々に「運転」の方向に戻します。

その後スロットルレバーをアイドリング位置に戻し2～3分間暖機運転を行ってください。



2-2 エンジンの停止

1. スロットルレバーを「アイドリング」の位置にします。
(前頁の絵、参照)
2. エンジンスイッチを「OFF」の位置に回します。
3. 燃料コックレバーを「止め」の位置に合せます。



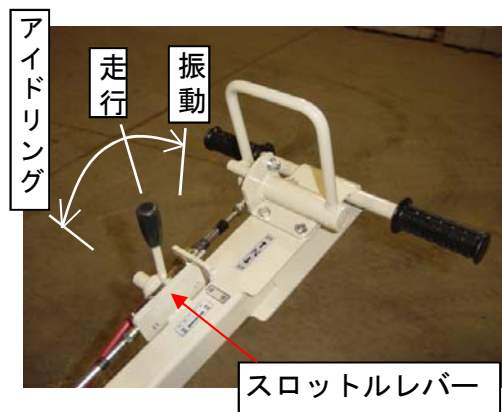
2-3 本機の運転・停止

走行

1. スロットルレバーを「走行」の位置にします。
2. 走行レバーを操作します。（前に倒すと前進、後に倒すと後進します）
3. 走行レバーを「中立」に戻すと停止します。

※ 取扱いのポイント

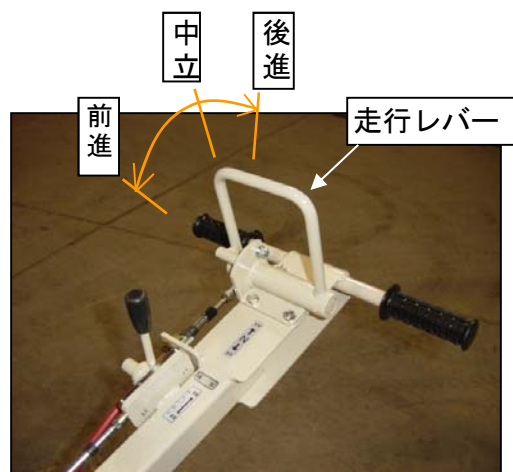
- ・ スロットルレバーを走行の位置より下げて使わないで下さい。
- ・ 走行レバーの急激な反転（前進・後進）操作はしないで下さい。
- ・ 運転中は操作ハンドルに乗らないで下さい。



振動

1. スロットルレバーを「振動」の位置（ストッパにあたる所）にすると振動が入ります。
振動での作業はスロットルレバーをこの位置で行ってください。
2. スロットルレバーを「走行」の位置に戻すと振動は停止します。

- #### ※ 振動作業はスロットルレバーを振動の位置より下げて使わないで下さい。



駐車

1. 走行レバーを必ず「中立」の位置にし、エンジンを停止して下さい。



- ・ 傾斜地には駐車しないで下さい。
- ・ やむをえず傾斜地に駐車する場合は走行レバーの中立にあることを確認したうえで車輪に歯止めをして下さい。
傾斜地で歯止めをしないと、エンジンが停止した状態であっても走行レバーを中立以外にすると本機が動き出します。

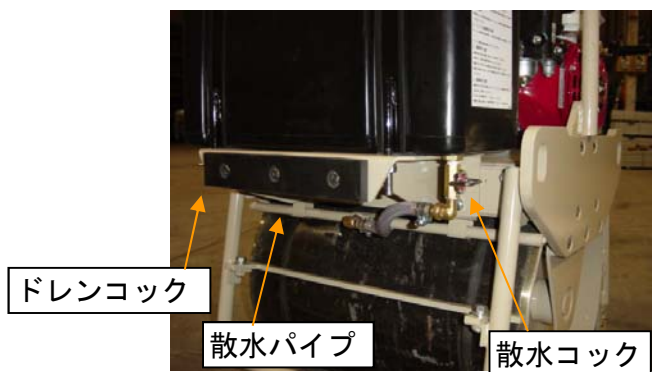
3. 作業(付属)装置

1. 散水装置

散水コックを開きますと車輪に散水できます。

2. 吊り金具

輸送時のトラックなどへの積み込みがクレーン等で簡単に行えます。



警告

積み込み・積みおろし作業の注意事項

(1) 一般事項

- ・ ローラの積み込み・積みおろし作業時は、作業者の安全を確保するため作業指揮者のもとに作業する。
- ・ 積み込み・積みおろし作業を行う場合は、平坦で堅固な地盤で行う。

(2) クレーンの使用時

- ・ クレーンによる積み込み、積みおろしの場合は、クレーンの運転資格と玉掛け技能資格の両資格が必要です。
- ・ 吊り上げ、運搬時はエンジンを停止してください。
- ・ 本機を吊り上げる際は、吊金具、防振ゴム等の損傷が無いか、取付ねじの緩み、脱落が無いかを必ず確認してください。
- ・ ワイヤロープ等は十分強度のあるものを使用し、使用前に安全を確認してから行ってください。
- ・ クレーンで積み込み、積みおろしの場合はまっすぐに衝撃をかけないように上げ下げして機械のバランスを確認しながらゆっくり積み込み、積みおろし作業を行ってください。
- ・ クレーンで吊上げた状態で機械を揺らすようなことは絶対にしないでください。
- ・ 吊り上げた機械の下に絶対に人や動物等を入れないでください。
- ・ 移動式クレーン、フォークリフト等で機械を吊り上げたままでの移動は、危険なので絶対行わないでください。

(3) 道板の使用時

- ・ 運搬用トラックにかける道板は、定められた十分堅固なものを使用する。
- ・ 運搬用トラックは駐車ブレーキを確実にかけ、タイヤに歯止めをし動かないようにして下さい。

- ・ 道板はトラック荷台とローラの中心が一致するようにかけ、勾配は15度以内で確実に固定する。
- ・ 道板、ローラのロールに水、油、土などが付着していないことを確認してから積み込み、積みおろし作業を行ってください。
- ・ 積み込みは前進で、積みおろしは後進で行い、エンジンは中速回転にし走行速度は低速で行ってください。
- ・ 道板上で進路変更をしないで下さい。必要な場合はいったん降りて進路方向を修正してください。
- ・ 積み込み後は移送中に動かないようにロールの前後に角材等で歯止めをし車体の前後をワイヤロープ等で固定する。



警告

輸送時の注意事項

- ・ ローラが動いたり倒れたりしないようにしっかり固定してください。
- ・ 必ずエンジンを停止し燃料フィルタのコックを閉じ燃料タンクのキャップをしっかりと閉めてください。
- ・ 輸送する時はローラを回送車に載せた状態での高さ、重量を考慮してください。

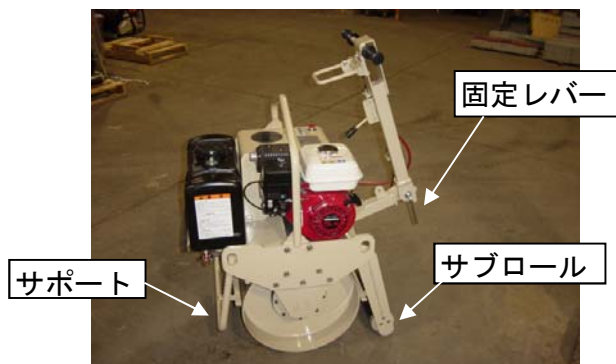
3. 操作ハンドルの格納

本機格納や運搬の時など操作ハンドルを立てますと場所を取りません。
固定レバー（ねじ込み式）をゆるめてハンドルを立て、回り止めの凹凸を合せて固定レバーを締付けてください。

4. サブロール、サポート

サブロール、サポートは走行時の前後の揺動による操作ハンドルの必要以上の上下の動きを規制します。

サブロールは発進停止時のショックを軽減するばかりでなく走行時の安定性を確保します。



本機及びエンジンの保守、点検



- ⚠ 危険 ※ エンジン運転中に点検をしないでください。大変危険です。
 ※ 点検は必ず安定した水平な場所に置き、エンジン、本機が冷えた状態で行ってください。

作業前の点検

	点検箇所	点検項目	点検時期
共通	外観	傷、ゆがみ、変形	作業前
	ボルト、ナット類	緩み、脱落	
本機	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損	
	ハンドル、吊りフック	傷、変形、亀裂、破損	
	作動油フィルタ及びポンプ	漏れ、汚れ、油量	
エンジン	燃料タンク	漏れ、傷、変形	
	燃料ホース	漏れ、傷、亀裂	
	キャブレタ	漏れ	
	エアークリーナ	汚れ、傷、変形	
	エンジンオイル	漏れ、汚れ、油量	

定期点検

	点検箇所	点検項目	点検時期
本機	Vベルト・チェン	点検、調整（又は交換）	100時間毎
	作動油オイルフィルタ	交換	500時間毎（初回は100時間）
	作動油	交換	500時間毎
エンジン	エンジンオイル	交換	100時間又は6ヵ月毎 （初回のみ20時間又は1ヵ月）
	エアークリーナ	清掃	50時間毎（300時間で交換）
	点火プラグ	清掃、隙間調整	100時間毎

- ※ エンジンの点検項目は抜粋を載せています。内容の詳細や整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照ください。
- ※ 本機の点検、調整方法は弊社、別冊「サービスマニュアル」を参照して下さい。
- ※ 各調整、整備に必要な情報（使用油脂類、ベルト類、各回転数）は巻末資料に記載しています。

ボルト、ナット、各部品の点検

- ・ ゆるんだボルト、ナット等は増締めしてください。
- ・ 破損部品、欠品部品は交換補充してください。
 （部品は、明和純正部品をご使用ください。）

本機洗浄時の注意

- ・ 高圧洗浄機で洗浄する場合は、エアクリーナ、キャブレタ、マフラ、燃料タンク給油口部に直接水をかけないで下さい。エンジントラブルのおそれがあります。
- ・ 高圧洗浄後、安全表示ラベル等がはがれた場合は新しいラベルに貼り替えてください。

8. 長期保管時の注意



- ・ 長期保管する場合は、エンジン、機体が冷えてから、燃料タンク、燃料ホース、キャブレタの燃料をきれいに抜き取ってください。
- ・ 本体及び、エンジンのオイルの補充、交換を行ってください。
- ・ エンジンの点火プラグを外し、エンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回ししてシリンダ内部にオイルを行き渡らせてください。
- ・ エアークリーナ、マフラの吸入口及び排気口をしっかり覆ってください。
- ・ 直射日光のあたらない、湿気やホコリの少ない屋内に保管してください。

※ ガソリンは自然に劣化しますので必ず抜いてください。

※ オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換して下さい。

メンテナンス資料

使用油脂類

	種類	量(リットル)
油圧作動油	油圧作動油N0. 46	0. 8
減速機	ギヤ用グリースN0. 0 GR-0 (日本鋳油)	0. 3
エンジン	エンジンオイル 10W-30 (CC級)	0. 6

使用ベルト類

	種類, サイズ
走行ベルト	3V-265
駆動ベルト	150S8M712
振動ベルト	150S8M944
チェン	N0. 50X54リンク

- 部品は必ず純正部品をご使用ください。

エンジン回転数

	測定条件	設定値 (min^{-1})
振動回転 (最高回転)	停車、加振	3800 ± 50
走行回転	停車	2900 ± 100
アイドリング (最低回転)	停車	1400 ± 150
走行クラッチ I N	停車	1370 ± 50
振動クラッチ I N	停車、加振	3310 ± 50

エンジンデータ

圧縮圧力 kPa (600 min^{-1} の時)	588～833
弁すきま mm (冷間時)	吸気弁 0. 13～0. 17 排気弁 0. 18～0. 22

振動数

振動数	7 4 H z (4440VPM) (EG3800 min^{-1} の時)
-----	---

こんな時は（トラブルシューティング）

1. エンジンの始動不良

項目		原因
燃料があり点火プラグが発火しない	高圧コードまで電気がきている	点火プラグの間隙の不適正
		点火プラグのカーボンによる汚れ
		点火プラグの絶縁不良
	高圧コードまで電気がこない	停止ボタンスイッチの短絡
		イグニッションコイルの絶縁不良、断線
		イグニッションコイルとフライホイールのエアギャップ不良
燃料があり点火プラグが発火する	圧縮が良い場合	マフラのカーボンによる閉塞
		不良燃料の使用
		エアークリーナのかぶり
		燃料に水またはゴミの混入
	圧縮が悪い場合	シリンダガスケットの不良または締付不良
		ピストンリングの膠着
		シリンダの磨耗
		点火プラグの締付不良
		バルブシートの荒れ
キャブレタに燃料がこない場合	燃料タンク内に燃料がない	
	燃料コックの開き不良	
	燃料フィルタのつまり	
	燃料タンクキャップ空気穴の塞がり	
	燃料パイプ中の空気たまり	

2. エンジン運転不調

項目		原因
力が弱い	圧縮が良く失火もない	エアークリーナの汚れ
		燃料パイプ中の空気たまり
		キャブレタのフロートレベルの狂い
		シリンダ内のカーボンのたまり
	圧縮不足	圧縮が悪い場合を参照
	圧縮が良く失火がある	イグニッションコイルの絶縁不良、断線
点火プラグのカーボンによる汚れ		
イグニッションコイルが時折、短絡する		
エンジンの過熱		燃焼室内にカーボン堆積過多
		マフラのカーボンによる閉塞
		点火プラグの熱価不良
マフラから煙が出る	黒煙が出る	チョークレバーの戻し忘れ
		チャンバのニードル磨耗
	青い煙が出る	オイル量過多
		ピストンリングの磨耗
	白い煙が出る	ガソリンに水分が含まれている
		エアークリーナが水で濡れている
回転変動		ガバナ調整不良
		ガバナスプリング不良
		燃料の流通不良
		吸入管系統からの空気の吸い込み

3. 本機の不調

項 目	原 因	対 策
HSTがいずれの方向にも回転しない。(走行しない)	回転数不足	エンジン回転数が規定の走行回転数になっているか確認する。
	回路中の油不足。	作動油タンクの油面をチェックし不足している場合は油を補給する。
	ポンプのコントロールリンク機構の欠陥。	コントロールレバーからポンプのハンドルコントロールシャフトまでのリンク機構全体をチェックし、その接続が完全であるか、機能どおり動くか確認する。
	ベルト又はクラッチの滑り	エンジンとクラッチとの間のベルト又はクラッチ自体に滑りや損傷がないか確認する。
油温上昇	油量不足	油を補充する。
		フィルタの交換、サクションラインの清掃。
振動しない	振動ベルトの伸び、切れ又は振動クラッチの滑り	確認し、調整、交換する。
振動が弱い	回転数不足	エンジン回転数が規定の振動回転数になっているか確認する。



株式会社 明和製作所

東京営業所	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)284-8883	FAX(048)282-0234
大阪営業所	〒536-0021	大阪市城東区諏訪 3-2-20	TEL(06)6961-0747	FAX(06)6961-9303
名古屋営業所	〒454-0869	名古屋市中川区荒子 1-32	TEL(052)361-5285	FAX(052)361-5257
福岡営業所	〒812-0006	福岡県大野城市仲畑 1-10-33	TEL(092)411-0878	FAX(092)471-6098
仙台営業所	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-23-10	TEL(022)236-0235	FAX(022)236-0237
関越出張所	〒378-0122	群馬県沼田市白沢町生枝 1480	TEL(0278)53-4075	FAX(0278)53-3807
川口工場	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)283-1611	FAX(048)282-0234
部品センター	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)280-5555	FAX(048)282-0330

<http://www.meiwa-ltd.co.jp>